



MGU Chapel Letter

—第15号 2022年9月5日—

発行：大学宗教センター



* 2022年度聖句 *

「主の慈しみは決して絶えない。
主の憐みは決して尽きない。」

哀歌 3章 22節



❖ 大学礼拝 9月のスケジュール

後期の礼拝は、9月21日(水)から始まります。

【昼休みの12時10分～30分に礼拝堂にて】

9月の礼拝日程（説教者の氏名）

- ・9月21日(水) 栗原 健 (宗教センター長)
- ・9月26日(月) 松本 周 (一般教育部准教授)
- ・9月30日(金) 末光 眞希 (学長)

※敬称略

❖ 聖書・讃美歌販売のスケジュール



教科書販売期間に合わせて、小ホールで9月12日(月)～14日(水) 10時～15時に仙台キリスト教書店が聖書・讃美歌を販売します。まだ購入していない方は、ぜひご購入下さい。特に、2020年春にはコロナ禍で聖書・讃美歌販売が行えなかったため、この年入学した学生には購入できなかった人も多いと思います。この機会を逃さないように。聖書は3,300円、讃美歌は2,420円です。

✿ 聖書のクイズ！（答えはページ下） ✿

以下の幕末の有名人のうち1人は、まだキリスト教が禁止されていた幕末の長崎で、初めて西洋の讚美歌を日本語に訳した人です（オランダ語からの訳）。誰でしょうか。

勝海舟

福沢諭吉

伊藤博文

坂本龍馬

✦ 聖書から自然について考えよう

楽しみだった夏休みも、まもなく終わりですね。

この夏は、猛暑と大雨がくり返されました。世界を見れば、中国やヨーロッパが異例の干ばつに苦しむ一方、パキスタンは大水害に見舞われています。気候変動の影響がどんどん色濃くなっている状態です。

聖書は、自然と人間との関係について何を教えてくれるのでしょうか。創世記2章には、このような言葉があります。

「主なる神は人（アダム）を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。」（15節）

土地を「耕し、守る」ということは、農夫として生活することだけではありません。「自然が一層豊かに実を結んで行くことができるよう、大切に世話をする」ということも意味します。そのためには自然の声に耳を傾け、そのニーズをくみ取ることが必要になります。一度の凶作でも飢えかねなかった古代の農夫にとって、自然の動きを深く観察してそのニーズを理解することは、生死にかかわる重大な営みでした。人間は本来、そのような真剣さをもって自然と向き合うようにと創られた存在なのです。

残念ながら、現代人は自然の声を聞くどころか、自然の存在自体を忘れがちです。まるで自然無しでも人間が生きて行けるかのような態度ですが、こうした思い上がりと無関心の結果が、現在の環境破壊と気候変動だと言えるでしょう。

宮学のキャンパスは、緑豊かな水の森に面した場所に位置しています。木の葉が色づいて行くこの秋、時間をとって自然と向き合ってみましょう。それが、自然や環境に対する態度を変える第一歩となります。 (栗原)



クイズの答え

勝海舟 「主をたたえよ」という歌を「思いやつれし君」という題で翻訳した。

【連絡先】 宮城学院キリスト教センター

TEL : 022-279-9558

Email : christ-c@mgu.ac.jp